

魂の安寧

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド長老

神の裁きの法廷に立つときにぜひとも明白であるよう望んでいることがあります。それは、……モルモン書が真実であ〔る〕……ことを、……わたしが世界に宣言したということです。

終わりの時に関する預言は、地震、飢饉、洪水といった大規模な災害についてしばしば触れています。これらを発端として、何らかの経済的または政治的な変動が世界の様々な場所で広まることもあります。

しかし、わたしはこの末日に起きる破壊の一つに、公衆に対してというよりは個人に対して、全体に向けてというよりは個々に向けて語られていると感じてきたものがあります。それは、教会外よりも恐らく教会内により当てはまる警告です。救い主は、終わりの時には「聖約」を受けた者、真の選民でさえも真理の敵に惑わされることがあると警告されました。¹これを霊的な破壊の一つと見るならば、末日に関する別の預言にも理解の光が注がれるでしょう。わたしたちの心を、信仰の中心、忠実さや価値観が存在する場所であると想像したうえで、終わりの時に人々の心が失われるであろう²と宣言されたイエスの御言葉について考えてください。

言うまでもなく、勇気を与えてくれるのは、天の御父がこれらの末日の危険、心と魂の悩みをすべて御存じであって、それらに関する勧告と守りをお与えになっているということです。

この点に関していつも意義深く感じるのは、末日の苦難に立ち向かううえで主の力強いかなめ石³の一つであるモルモン書が、希望と恐怖、光と闇、救いと滅亡など、人生についての偉大なたとえで始まっているということです。このたとえについては、今朝、アン・M・ディブ姉妹が心に残る話をしてくれました。

リーハイの夢で暗黒の霧が起こり、リーハイの家族やほかの人々が進むべき、安全ながら狭い道がまったく見えなくなると、それまでも大変だった道のりがさらに厳しい旅となりました。ここで見落としてはならないのは、この暗黒の霧がすべての旅人、つまり、必ずしも強くない人や真実の原則という土台に立っていない人だけでなく、忠実で、固い決意を持った人（選民と呼んでもいいでしょう）にも降りかかったという点です。この物語で大切なのは、立派に旅を終えた人が、禁じられた道への誘惑や、その道に迷い込み虚栄と自尊心に凝り固まってしまった人々からのあざけりなど、道からそらそうとするあらゆるものに抵抗したということです。記録によると、守られた人々は、真理の道に沿ってどこまでも延びる鉄の棒に「しっかり〔わたしなりの言い方では、粘り強く〕つかまりながら道を押し進」んでいました。⁴ どれほど暗い夜も、あるいは昼も、鉄の棒は贖いに通じる唯一の道を示しています。

後にニーファイはこう言いました。「鉄の棒〔は〕……命の木に導く神の言葉で

あ〔り〕……神の愛の表れであることを知った。」神の愛の表れを見たニーファイはさらにこう言いました。

「それで眺めると、……世の贖い主が見え、……出て行き、……人々を教え導かれるのが見えた。……

……病気の人々や、様々な患いに苦しんでいる人々、悪霊や汚れた霊につかれて苦しんでいる人々の群れが見えた。……これらの人々は神の小羊の力によって癒され、また悪霊や汚れた霊は追い出された。」5

愛。癒し。助け。希望。時の終わりを含むあらゆる時代のすべての問題を解決するキリストの力。これが、絶望する個人または社会が身を寄せるよう神が望まれる安全な港です。これが、モルモン書が一貫して伝えている、「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい」6とすべての人に呼びかけるメッセージです。リーハイの示現から1,000年後に記されたモロナイの最後の証から引いたこの言葉は、唯一の真実の道についての死を目前にした人の証なのです。

近代に語られた「終わりの時」の証を紹介しましょう。ジョセフ・スミスと兄のハイラムが、殉教が迫っていることを知りながらカーセージに向かって出発したとき、ハイラムは弟の心を慰めるために次の一節を読みました。

「あなたは忠実であったので、……あなたは……強くされて、わたしが父の住まいに用意した場所に座せるようになるであろう。

さて、わたしモロナイは、キリストの裁きの座の前で会うときまで、……別れを告げる。」7

それはモルモン書のエテル書第12章にある数節でした。ハイラムはモルモン書を閉じる前に、読んだページの角を折り返し、永遠の証に付け加えました。この証のために、二人の兄弟は命を落とそうとしていたのです。わたしが今手にしているのは、ハイラムが読んだそのモルモン書です。ページの角が折られているのが今でも分かります。後に、カーセージの監獄に入れられた預言者ジョセフは、自分たちを見張る看守に向かい、モルモン書が神聖な真実の書物であることを力強く証しました。8 そして間もなく、最期の言葉を残した二人の命を銃弾が奪ったのです。

モルモン書が神聖な書物であるというわたしの証の根拠となる数え切れないほど多くの要素の一つとして、わたしはこれをモルモン書が真実であることを示すさらなる証拠として提示します。最も助けを必要とする最期の時を迎えたこの二人が、事実に基づかない、作り話でできた書物に命と名誉をかけ（これには、教会と教導の業という意味も加えることができます）、そこに永遠の救いを探し続けることで、神を冒瀆するでしょうか。

このすぐ後に、ジョセフとハイラムの妻たちが夫を、そして子供たちが父親を失ったことは考慮しないでください。また、従ってきたわずかな人々も「家、友達、家庭を失」い、その子供たちが凍りついた川と未開の大草原に血の足跡を残すこ

とになった9ことも忘れてください。そして多くの人が命を失い、また多くの人がモルモン書と、モルモン書が真実であることを宣言する教会のために世の隅々まで出て行ったということも忘れてください。このすべてを考慮から外したとしても、死を目前にした二人の兄弟が、もし神の御言葉でないとしたら時の終わりまでもペテン師、詐欺師の烙印を押されるような書物から引用し、慰めを見いだしながら永遠の裁き主の御前に行こうとするのでしょうか。そのようなことをするはずがありません。二人は、モルモン書が神聖な起源を持つ永遠に真実の書物であることを否定するくらいなら、むしろ進んで死を選ぶ人たちでした。

この書物は、179年間にわたって調査されて攻撃を受け、否定され、細部まで調べ上げられ、標的にされ、非難を浴びてきました。これほどの書物は近代の宗教史には恐らくなく、すべての宗教史においてもきつとないでしょう。この書物は今なお立っています。モルモン書の起源については、イーサン・スミスやソロモン・スポルディングの書物を基にしているという説から、錯乱した被害妄想者か天才的な悪人だから書けたという説まで、成功することのない理論が生まれ、おうむ返しに繰り返されては消えていきました。モルモン書について、このような、率直に言えば哀れと言うほかない結論の中で、検証に耐えたものは一つとしてありません。なぜなら、無学な若き翻訳者ジョセフが示した答え以外に答えはないからです。この点について、わたしは曾祖父が短くまとめた言葉に共鳴しています。「悪人にこのような本は書けない。この書物が真実であって、神から命じられるのでなければ、善良な人も書くことはできないのだ。」¹⁰

モルモン書が神聖な書物であることと、モルモン書が証する主イエス・キリストが神の御子であられることを心から受け入れないかぎり、この末日の業に十分な信仰を持つこと、そしてそれにより現代にあって完全な平安と慰めを得ることはできないと証します。愚かにも、または惑わされて、真剣にこの書物の起源を調べようとしないのであれば、特にイエス・キリストに対する力強い証について知り、その証が今では1,000万を超える読者に深遠で霊的な力を与えている理由を知ろうとせずに、世が知らなかった、複雑な文学と入り組んだセム族文化を満載した531ページの文章を否定するのであれば、その人はだれであろうとも、そして選民であるかないかにかかわらず欺かれているのです。そうした人が教会を去るのであれば、その人は、あらゆる理由を使ってモルモン書と向き合うことを拒否しておきながら、モルモン書を理由に教会を去っているに違いありません。この意味でモルモン書は、キリスト御自身もそう言われたように、「つまずきの石、妨げの岩」¹¹ であり、この業を信じないことを望む人の道を阻む障壁なのです。証人たちは、ジョセフに対して一時は敵意を抱いていた人でさえも、自分が天使を見て、金版に手を触れたことを生涯にわたって証しました。「それがわたしたちに示されたのは人の力ではなく神の力による」と彼らは宣言しています。「したがって、わたしたちはこの書物が真実であることを確かに知っている。」¹²

ところで、わたしはヤレドの兄弟とともに海を渡って新世界に定住の地を見いだしたわけではありません。天使から告げられた教えをベニヤミン王が語るのを聞いたわけでもありません。アルマとアミュレクとともに伝道したわけでも、罪のない信者たちが火で殺されるのを見たわけでもありません。復活された主の傷に触れたニーファイ人の群衆の中にもわたしはいませんでした。一つの文明が完全

に滅びていくのを見てモルモンとモロナイとともに涙を流したわけでもありません。それでも、わたしはこの記録について証します。この記録が人の心にもたらす平安は、モルモン書に登場する人々が経験したと同じように力があり、鮮明です。彼らと同じように「〔わたし〕は、〔自分〕が見たことを世の人々に証するために、〔自分の名〕を公に」します。そして彼らと同じように、「〔わたしは〕偽りを言〔いません〕。神がそのことを証され〔ます〕。」13

今日、この話を通して、わたしがモルモン書とその内容について、誓いを込めて、また自分の神権の職に基づいて証したということが、地上の人々と天の天使たちによって記録されるよう願っています。わたし自身の「終わりの時」までまだ数年の猶予があることを望んでいます。この望みがかなうかどうかにかかわらず、神の裁きの法廷に立つときにぜひとも明白であるよう望んでいることがあります。それは、モルモン書が真実であり、ジョセフが述べた方法で世に出され、この末日の苦しみの中で忠実である人に幸福と希望をもたらすために与えられたことを、自分の知り得るかぎり最も率直な言葉でわたしが世界に宣言したということです。

わたしの証は、ニーファイが自分の「最後の時」にモルモン書に記した証と同じです。

「これらの言葉を聴き、キリストを信じなさい。また、これらの言葉を信じなくても、キリストを信じなさい。キリストを信じれば、これらの言葉を信じるようになるであろう。これらの言葉はキリストの言葉〔である〕からである。そして、これらの言葉は、善を行わなければならないことをすべての人に教えている。

これらがキリストの言葉でないかどうか、判断してもらいたい。キリストは終わりの日に、力と大いなる栄光とをもって、これらが御自分の言葉であることをあなたに示されるであろう。」14

兄弟姉妹、神は魂の安寧を用意してくださっています。モルモン書を送ることで、この時代のわたしたちにも再び安寧を与えてくださっています。「だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない」15 とイエス御自身が宣言されたことを覚えていてください。そうすれば、皆さんの心も信仰もなくなることはないでしょう。このことを心から、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

NOTES

注

1. マタイ24：24参照。ジョセフ・スミス—マタイ1：22も参照
2. ルカ21：26参照
3. *History of the Church*, 第4巻, 461参照
4. 1ニーファイ8：30
5. 1ニーファイ11：25, 27—28, 31
6. モロナイ10：32
7. エテル12：37—38。教義と聖約135：5も参照
8. *History of the Church*, 第6巻, 600参照

9. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第4巻, 539で引用
10. ジョージ・キャノン。"The Twelve Apostles,"アンドリュー・ジェンソン編, *The Historical Record*, 第6巻, 174で引用
11. 1ペテロ2:8
12. 「三人の証人の証」モルモン書
13. 「八人の証人の証」モルモン書, 強調付加
14. 2ニーファイ33:10-11, 強調付加
15. ジョセフ・スミス—マタイ1:37